

講壇点滴

御子の到来を待つ

テサロニケの信徒への手紙一

三章一〜一三節

牧師 姜 涇 米

主イエスが来られるとき、それは主イエスの第二の到来、再臨のことです。復活して天に昇り、全能の父なる神の右に座しておられる主イエスが、「かしこより来りて生ける者と死ねる者とをさばきたまわん」と使徒信条に語られているその時です。主イエスがまことの神としての権威と力とをもつてもう一度来られ、神の国が実現する。その主イエスの再臨の時が見つめられているのです。

なぜそんなことを確信をもつて言うことができるのか。それは、主イエスの第一の到来があるからです。二〇〇〇年前、ベツレヘムの馬小屋で、神様の独り子であられる主イエスが、私たちのために、人となつてくださいました。その神様の独り子主イエスが、罪人である私たちを救うために私たちと同じ人間になつてくださり、私たちに代つて十字架にかかつて死んでくださったのです。

主イエスの愛は私たちのために死んでくださるほどに深い、完全な愛です。そのように私たちが愛していくと、主イエスが、世の終わりにもう一度来られるのです。それは私たちの救いを完成してくださるためです。

主イエスの第一の到来の恵みを覚え、主イエスを救い主と信じる私たちは、主イエスの第二の到来、再臨を、私たちの救いの完成の時として待ち望むことができるのです。

私たちは今、アドベント、待降節を迎えて歩んでいます。主イエスの第一の到来を記念し喜ぶアドベントは、同時に主イエスの第二の到来、再臨を待ち望む信仰を確かめ、整える時であります。私たちは、主イエスの第一の到来を喜び、感謝するから、第二の到来を待ち望むのです。そしてそれは、私たちの信仰の欠けが主イエスによって補われ、完成されることを待ち望むことです。神様を愛することにおいても、隣人を愛することにおいても、お互いの愛においても、すべての人への愛においても、私たちが聖なる、非のうちどころのない者とされることを待ち望みます。主イエスが来られる時にそれは実現します。

私たちのこの地上での人生の歩みは、欠けだらけです。神様を愛することにおいても、隣人を愛することにおいても、お互いの愛においても、すべての人への愛においても、私たちの愛はいつも不十分であり、愛するよりもむしろ憎しみに生きてしまうことの方が多いのです。

けれどもその現実の中で私たちは、愛することに絶望することなく、主につながる兄弟姉妹の間での愛を深め、その愛を自分と出会い、関わりを持つすべての人々と広げていく努力を続けていくのです。主イエスが私たちを導き、強めて、私たちの愛を豊かに満たしあふれさせてくださることを祈り求めながら

歩むのです。お互いの愛とすべての人への愛を、主が私たちの内に豊かに満ちあふれさせてくださることを願う祈りを、御子の到来を待ち望むこの時の私たちの祈りしたいと思います。(二〇二五年十一月三〇日夕の公同礼拝)

一〇月講壇一覽

第一主日(一〇月五日)

教会創立九十四周年記念礼拝

「わたしの教会を建てる」

マタイ 一六・一三〜二〇

夕の公同礼拝

「新しい戒め」

マタイ 一九・一六〜二二

第二主日(一〇月一二日)

公同礼拝

「この最後の者にも」

マタイ 二〇・一〜一六

夕の公同礼拝

「怠惰からの脱出」

テサロニケⅡ 三・六〜一二

第三主日(一〇月一九日)

歓迎礼拝

「油断大敵」

マタイ 二五・一〜一三

夕の公同礼拝

「神様の言葉を聞く」

テサロニケⅠ 二・一三〜一六

第四主日(一〇月二六日)

公同礼拝・夕の公同礼拝

「熱心にみ言葉を受け入れ」姜 涇米牧師

使徒言行録 一七・一〜一五